

【アゼルバイジャン経済トピック 122 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2022 年 12 月 28 日

アゼルバイジャン政府による国際物流網の整備

デジタル開発運輸省の物流担当大臣補佐官に中央回廊の開発についてお話を伺ったので結果を紹介します。

同補佐官によれば、デジタル開発運輸省は、2022年から中央回廊の整備プログラムを開始しており、その一環として国内における物流インフラの DX 等も推進していく計画だそうです。また、アゼルバイジャンを通過するトランジット貨物増加を目的として、現在アゼルバイジャン政府は、ジョージア及びカザフスタン政府とも協業しているそうです。

当該プログラムの取りかかりとして、アゼルバイジャン及びジョージア、カザフスタンを対象に実施された調査によると、当該国際物流のボトルネックはインフラそのものでなく、むしろオペレーションにおける課題が大きいことが分かったそうです。特に、オペレーターが切り替わる各国国境においては、各貨物に紐づく情報についてオペレーター間の連携が煩雑となっている状況とのことでした。アゼルバイジャン国鉄は、DX プロジェクトを立ち上げる予定で、2023 年第 1 四半期にては当プロジェクトに関する入札を行い、具体的な事業を以て問題の解決に取り組むそうです。

また、西側諸国によるロシアに対する経済制裁の影響もあり、中央回廊を利用する企業が増加する中、これを恒久的なものとするべく、一定規模以上の貨物輸送を行う企業に対しては“テイラーメイドな”サービスを、また、12 月 2 日から、ジョージア・ポチ及びカザフスタン・中国国境間において、貨物需要に関係なく週 3 往復で定期貨物列車を運行しているということでした。

物流網改善を通じて、同物流網の整備に係る本邦企業のビジネスチャンス並びに利用機会増加が期待されます。

(以上)